

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 - 03 特集① 新型コロナウイルスから尾瀬を守る
- 04 - 05 特集② 尾瀬でのソーシャルディスタンス ～ツキノワグマ編～
- 06 - 09 現地情報 番外編① ブログで振り返る令和2年度シーズン
- 10 現地情報 番外編② 第1回冬期調査
- 11 令和3年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 12 尾瀬ボランティア情報
- 13 令和2年度 尾瀬保護財団の主な活動
- 14 - 15 尾瀬保護財団からのお知らせ



2021.3 vol.45
(公財)尾瀬保護財団



研究見本園のミズバショウ 撮影日：令和2年5月24日

特集①

新型コロナウイルスから尾瀬を守る

◆尾瀬に向かうまで

今年もいつも通りに春が来て、雪解けが進む5月には尾瀬に入るのだろ〜と思っていました。新型コロナウィルスの流行、緊急事態宣言など今までに経験したことのない出来事が重なりました。「尾瀬に行けるのだろうか、尾瀬に行けぬままシーズンが終わってしまつのではないか」という不安と焦燥を抱えながら、馴れない在宅勤務をこなしていました。

8年ぶりに見る故郷の初夏を楽しみながら、ようやく尾瀬で勤務することができると知らせを聞いた際は喜びとともに、いつもとは違う状況でうまくやっているとだろうかという不安もありました。



入山口に立てられた注意看板

◆いつも通りにはいかならず難しさを一試行錯誤の毎日

施設内展示の準備もいつも通りにはいきません。感染予防対策のため、原則として手で触れる展示はできず、できても消毒が可能なもののみです。尾瀬沼ビジターセンター（以下「沼VC」）の展示物は手作りが多く、ハンズオン型（触って体験できるかたち）も多くあるので、非常に苦労しました。幸いだったことは展示スペースが広く、ソーシャルディスタンスを保てる配置が可能なことでした。

見て楽しむ展示をメインにして、沼VCは7月1日に開館しました。

来館者の様子を見ながら、触れることができないのでつまらないなどと言われなにか内心ドキドキしましたが、「楽しかったね」の一言や温かな笑顔が見られたので大変嬉しかったです。

◆マスクをしながらの業務

職員は常にマスクを着用する必要があります。しかし、尾瀬は山岳地帯であり平地よりも酸素が薄いためか、マスクを着用したままだと少し登っただけでも息が切れ、酷いときはめまいがします。登山道の巡回業務中は、周りに人がいないか良く確認しながらマスクを着脱するなどの工夫が必要でした。

巡回時にはゴミ拾いをしますが、今年はマスクの落とし物が非常に多かったです。「尾瀬にまで新型コロナウイルスの影響が及ぶとは思わなかった」、それらを拾ったときに現在の息苦しい時代を物語っているように感じられました。

イベントを実施する際も当然マスクを着用し、さらにソーシャルディスタンスも保たねばなりません。聞こえやすいように声を大きくしますが、マスクによる息苦しさを感じることもありました。しかし、参加者の笑顔を見ると、「やってよかった。頑張った甲斐があった」と困難な状況でありながらも今まで通りの安心感や充実感がありました。



ソーシャルディスタンスを保つ展示

◆ 尾瀬を守る感染予防対策

最近ではマスク不足も解消し、どこでもマスクの着用が当たり前になっていますが、尾瀬ではこんな出来事もありました。沼V.Cでは入館時やイベントの際はマスクの着用をお願いしています。しかし、登山者の中にはマスクを持ってきていない人が意外と多くいます。「え？ここでもマスク着用なの？」「山だし、外だから大丈夫だと思って…」確かに山に登る際のマスクの着用は息苦しく感じます。身体的な理由などでマスクが着用できない人がいるのも事実です。



マスクを着用しながらのイベント

しかし登山中に運悪く怪我をしてしまい自力下山が難しくなると、救助を要請したとします。たまたまその方がマスクをしていない無症状の感染者だった場合、そのまま救助されると、救助関係者に感染させる可能性があります。救助関係者は限られており、万が一彼らに感染が広がった場合、他地域を含めた山岳救助への影響は甚大です。また、尾瀬のような医療に脆弱な山岳地域では、そこで生活しながら勤務する関係者にひとたび感染が広がると感染者の関係する施設のみではなく、地域全体の閉鎖につながる恐れもあります。

この様な状況だからこそ尾瀬に関わる私たちは、より一層感染予防に努めなければならぬと感じています。

◆ 最後に

ウィルスの影響により、尾瀬で当たり前のようにお会いしていた人たちと会うこともできず、お盆も帰省することができませんでした。寂しさを感じると同時に自分がどれだけ多くの人々に支えられてきたか、いか

尾瀬入山にあたって

尾瀬入山にあたっては、次の点にご注意ください。

1 体調に不安がある方は入山しないでください。 (従来どおりの遭難救助はできません)

- 当日検温を実施するとともに、発熱や咳等の症状がある方は、入山しないでください。

2 必要に応じたマスク等の着用をお願いします。

- 施設内、乗合バス・乗合タクシー内や人とのすれ違い時などにはマスク等を着用し、咳エチケットにご配慮ください。
(※熱中症予防にも、十分ご留意ください。)

3 身体的距離を確保してください。

- 他の方との間隔は、2m以上等、余裕のある距離を保ってください。
- 尾瀬の木道は1基(1本)約4mで、目安となります。

4 余裕のある登山計画を立ててください。

- マスク等の着用や、身体的距離に配慮した登山は、時間がかかります。
- 事前に情報収集等を行い、無理のない行程を計画してください。

2020.8.25 環境省、群馬県、福島県、新潟県、片品村、檜枝岐村、南会津町、魚沼市、(公財)尾瀬保護財団

に自分が尾瀬に思い入れを持って接してきたかを感じることができました。時代が大きく揺れ動いても変わらずに季節が移ろう尾瀬の自然を見ると、人間の存在の小ささを感じずにはいられません。今まで当たり前の日常を過ごしてきた私たちは、ついついそのことを忘れてしまつところがあるようです。

尾瀬を愛する気持ちを失わない限り、また自然の大切さや畏怖などを忘れない限り、どんなことが起こっても尾瀬は変わらずにあるということをお願いできません。幾度とない困難を乗り越えてきた先人達の意志を受け継ぎ、この美しい尾瀬を未来を担う子供達の世代に引き継いでゆることが私たちの役目です。そして、いつかマスクを外して、当たり前のように笑い合える日が来ることを願っています。

(尾瀬沼ビジターセンター 令和2年度管理員 川上 藍)

特集②

尾瀬でのソーシャルディスタンス

ツキノワグマ編

尾瀬のシーズンが終わり、この半年を振り返ってみると今年は昨年と比べるとずっと静かな尾瀬だったなあと感じています。新型コロナウイルスの影響で外出を自粛する方が多かった為であると思いますが、皮肉にも、自然本来の風景や音を存分に感じる年だったと言えるかもしれません。

さて、例年多くの人が歩く木道を人があまり歩いていない。この状況を尾瀬に住む動物たちはどう捉えたでしょうか。普段は人の近くには姿を現さない動物たちが今年は少し大胆になつたように感じました。尾瀬に生きる可愛い動物たちが近くに来てくれるなんて夢のような話ですが、忘れてはいけません。彼らは野生動物なのです。

みなさんにとって野生動物とはどんなものですか？



ミズバショウを採食する親子クマ

例えば、可愛らしい見た目をしているオコジヨ。見た目に反して彼らは狩りをする肉食動物です。自分の体の2、3倍近くもあるノウサギを捕らえて食べることもあります。野生動物は人間と生活を共にするペットとは異なり、生きるためには時に人間に牙をむくことがあります。

さて、今年の尾瀬の振り返りへと戻ります。ツキノワグマの目撃数についてです。今年に入山者が少なかったというのに過去最高である197件の目撃情報が寄せられました。今年が目撃情報の特徴として『木道のすぐ近くでの目撃が多い』ということがあげられます。実際に私も木道のすぐそばでミズバショウを採食しているクマに遭遇しました。

その時は登山者からの通報を受け、追い払い、もしくは

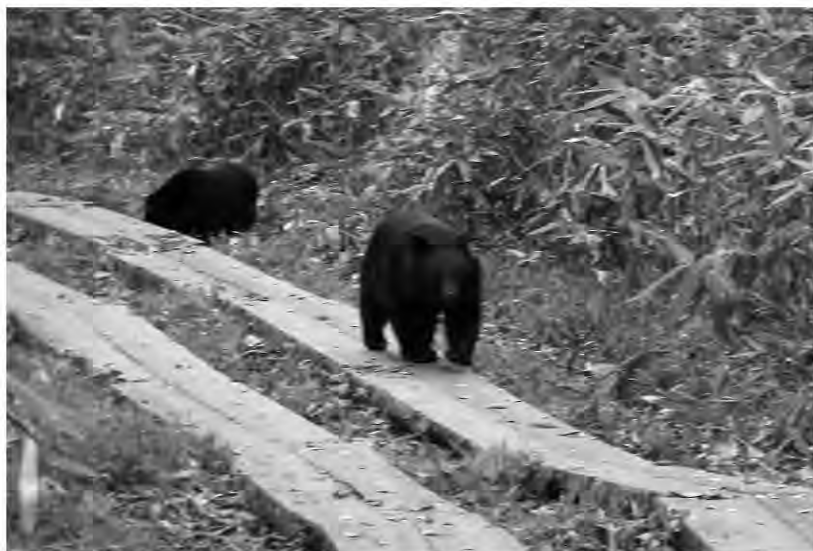


追い払い

監視の目的で現場に向かいました。現場に着いてみるとそのクマは私を見て何も気にした風は無く、地面にお尻をつけて黙々と食事を続けていたのです。その行動に驚き、私がクマ撃退スプレーを片手に持ったままたらを踏んでいると、クマを挟んで反対側から登山者が向かってくるではありませんか。私は焦りました。「追い払い中です」と声をかけようかとも思いましたが、大声を出してクマをいたずらに刺激することを恐れ、やめました。その登山者が通り過ぎるまでクマがそのままおとなしくしていてくれる事を祈りました。手招きでお客様を急ぐように誘導し、ようやく追い払いを行うことができ、胸をなでおろしました。その登山者に声をかけると、「クマの存在に気づいてはいたが、小さいしおとなしいから大丈夫だと思っただ」とのことでした。

人の通りの少なくなった木道。その木道のすぐ近くに現れるようになった「人間を警戒しないクマ」がいること。そして「そんなクマを警戒しない人間」がいること。これはとても危険な事態です。

最近の登山者はよく写真を撮るようになったため、クマにも容易にカメラを向けます。緊張感が薄れるほどクマの出没が頻発しているせいなのか、単に物珍しさからなのかわかりません



木道脇に出てきてしまったクマ

専門家の指導を受けたビジターセンター職員が、安全を確認し記録のために撮影しています

が、いずれにしてもこれはクマを刺激するかもしれない危険な行為です。クマの慣れは問題ですが、襲われて大けがをする恐れのある人間の方に危機感がないことも大きな問題です。

クマは尾瀬という自然の中で重要な役割を担う生き物です。わかりやすい例としてあげられるのは、「ミズバショウの実を食べ、その種を運び植生を拡げる」などがあります。他にも人間が知っていることから知らないことまで様々な役割を担っているのでしょう。私たち人間がその役割を取って代わることなく到底出来ません。尾瀬を保全する上でクマと共生することは避けて通れない道なのです。

2021年の尾瀬も新型コロナウイルスの影響が続くと、いつも通りというわけにはいけなくなりそうです。人間が少なくなった尾瀬は野生動物にとっては生活しやすく感じ、いつもは姿を現さない木道脇でも頻繁に目撃される可能性もあります。今はいつにも増して、私たち人間が野生動物の住処にお邪魔しているということを忘れずに、適度な距離を保ちながら尾瀬の自然を楽しむことが求められていますように感じます。

(尾瀬山の鼻ビジターセンター 令和2年度管理員 石川 知恰)



テンマ沢湿原のクマ鐘

ブログで振り返る 令和2年度シーズン

5月28日(残雪燧とミズバショウの春)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

環境省尾瀬沼ビジターセンターは、檜枝岐村内施設の営業自粛を踏まえ、6月末まで閉館しております。

本日は大江湿原巡回で、ビジターセンターから大江湿原を経由して沼山峠休憩所まで歩いてきました。皆さん、お察しかも知れませんが、今年は雪が少なめで、大江湿原上の木道には残雪はなく全開です。湿原にも端の方に少し雪が残っている程度で、すでに春の小さく力強い命が芽吹いています。木道の間に咲くミスバショウ、カメラを向けたら、まるで一斉に見上げた小さな生き物かのような雰

囲気がしませんか？

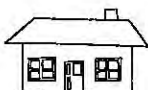


6月6日(尾瀬の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

今シーズンの初ブログです。

山小屋や休憩所はほとんど休業しています。檜枝岐村はバスや観光施設、民宿等全て休止しているため、群馬県側から檜枝岐村に行くことはできません。現在、尾瀬は入山自粛ですが、群馬県内の方もお越しになる際はクマとの遭遇を避ける対策をしてください。尾瀬は皆様を迎えるための準備を進めています。



6月10日(シカ柵設置の様子)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

目を細めたくなるほどの強い陽射しの中、大江湿原の植生を守るため今年もシカ柵設置作業が行われました。

昨年は尾瀬沼ボランティア、企業ボランティアなど多くの方にご参加いただきましたが、今年は環境省の保護官と尾瀬保護財団の職員合わせて10名でシカ柵の一部区間の設置作業を行いました。

近年シカ柵の効果もあり、大江湿原のニッコウスゲも回復してきたと言われています。今年もニッコウスゲがたくさん咲くことを願っています。



6月15日(尾瀬沼ビジターセンターの様子)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

今、尾瀬沼ビジターセンターは新しいメンバーを迎え、7月1日の開館にむけて展示を大きく変えようとしています。

新型コロナウイルス対策を踏まえた展示となるため、制限はあるものの尾瀬を訪れた皆様を楽しめる展示にしたいと考えております。

ブログをご覧の皆さまも新型コロナウイルスに負けずに元気に頑張ってくださいませよう。

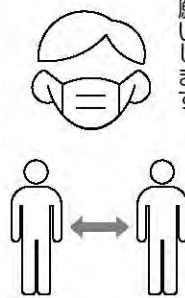
入山自粛解除後、皆様にお会いできる日を楽しみにお待ちしております。



6月20日(みなさまへのお願)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

営業開始の準備をすすめている山小屋もあります。尾瀬のような山岳地帯の感染症予防は、皆様の協力が不可欠です。ベンチに座る際はマスクを着用し、密集しないようにご利用ください。感染リスクの高いマスクは落とさないようにお願いします。



7月1日(ビジターセンター開所)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開所を見合わせていた尾瀬沼ビジターセンターですが、本日7月1日より開所いたしました。

開所にあたっては、消毒液の設置や、入館者の皆様が手に触れるものを極力少なくするなど新型コロナウイルス感染対策を行っています。

今日の尾瀬沼は時折雨の降る天気、大江湿原には、レンゲツツジの花、ワタスゲの綿毛(果穂)が多く見られます。皆様からお問い合わせをいただいているニッコウスゲも数輪咲き始めました。例年より少し早めの開花かもしれません。



7月2日(笠ヶ岳の柵立て作業を行いました)
 ～山の鼻ヒジターセンターより～

道迷い対策や植生保護の為に、笠ヶ岳の柵立て作業を実施しました。

笠ヶ岳へは、鳩待峠から入山します。最初は歩きやすい登山道ですが、悪沢岳分岐からはぬかるみや倒木が多く、跨いで越えしました。笠ヶ岳は至仏山と同じく蛇紋岩の多い山で、沢山の高山植物に彩られています。



7月13日(ミニツアー開始)
 ～尾瀬沼ヒジターセンターより～

本日より、尾瀬沼ヒジターセンターで恒例の9時30分からの尾瀬を感じるミニツアーが始まりました。

今年からは新型コロナウイルス感染症防止のために事前予約制で、体調確認・検温も実施します。

ミニツアー中は、マスクの着用・ソーシャルディスタンスをとることをお願いしています。

尾瀬の人気者のオコジョやヤマネについても、ぬいぐるみなど小道具を使用し楽しく説明します。

30分間のミニツアーはあつという間の時間ですが、少し尾瀬のことを知ること、さらに自然を大切に思い、満喫できるはず。



7月16日(山の鼻Vのイベントとお願い)
 ～山の鼻ヒジターセンターより～

今年のスライドレクチャーは予約制で実施しています。間隔を開けて着席いただくために定員は14名としています。

スライドレクチャー、朝の観察会ともに感染症予防のために手指消毒、マスクの着用、検温、健康状態申告書の提出をお願いいたします。

7月18日(ニッコウキスゲの見頃を迎えて)
 ～尾瀬沼ヒジターセンターより～

気になる大江湿原のニッコウキスゲですが、今週はこのような様子でした。「わー、綺麗!!」「こんなに咲いているー、嬉しい」という歓声が、そこから聞こえてきます。

いつも尾瀬沼は静かだけれど、とした雰囲気があります。しかし、木道は複線で行きと帰りの二本しかありませんので、大変、混み合います。



お花や景色に気を取られて転倒したり、気が付かずに近くに生えているニッコウキスゲを踏んでしまったり、ストックで茎を引っかけたり折ってしまうなどの光景を見かけるときがあります。木道は譲り合いながら、植物や動物を傷つけないように足元や周囲に気を配るように、よろしくお願いいたします。

8月6日(ミズバショウの刈り払い)
 ～山の鼻ヒジターセンターより～



ツキノワグマとの不意の接触を防ぐため、テノマ沢湿原でミズバショウの刈り払いを行いました。クマはこの時期、ミズバショウの実を食べるために木道の近くまでやってきますが、人間と接触し危害を加えたクマは「危険なクマ」として捕殺される可能性があります。尾瀬にすむツキノワグマをそうさせないためにもこの作業はとても重要です。

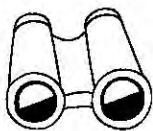
8月12日(会津駒ヶ岳の様子)
 ～尾瀬沼ヒジターセンターより～

昨日、滝沢登山口より会津駒ヶ岳・中門岳への巡回を行いました。

お盆時期となり滝沢登山口駐車場は朝6時には満車となり、多くの登山者が訪れていることが分かりました。

天候にも恵まれ青空の下、頂上や尾根沿いではとても気持ちの良い山行となりました。

会津駒ヶ岳山頂からは、やや霞んではいましたが富士山を遠望することができました。



8月17日(オコジョにあっちゃんた)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

突然ですが、昨日のこと。オコジョに会ってしまいました。昨日、燧ヶ岳の巡回に向かったところ、二本カラムツ近くの橋で親子3人に出会いました。娘さんがカメラを橋の下に向けているので、何かいるのか聞いてみたところ、オコジョではないかと写真を見せてくれたのです。まさにオコジョでした。また現れてくれるかなと思いつつ、親子3人と私の4人でしばらく待っていると、目の前に現れてくれました。オコジョは度々出てきては、背伸びしてお父さんの方を向きます。一眼レフカメラのシャッター音に反応しているようでした。次にお母さんと娘さんのいる方に顔を向けます。時には娘さんの足元まで行って隠れてしまいます。しかし、なかなか私の方に関心を向けてくれません。後ろ姿ばかり眺めていたので、しびれを切らして「おい、こっちにも顔を向けてよ」と、つい声に出してしまいました。

声に反応して逃げられるかと思いましたが、うれしいことに、急に私の方に顔を向けてくるではありませんか。大変素早い動きですが、橋の下に潜り込んだり現れたりを何度も繰り返しています。大変好奇心が旺盛な動物なのだと思わためて感じました。



8月20日(福島県尾瀬保護調査会との)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

木道を歩いていると湿原の中ですら作業をしている人達が見えます。初めて見た方はびっくりするかもしれませんが、福島県尾瀬保護調査会(木村勝彦福島大学教授他)に尾瀬沼ビジターセンターの職員が同行し、大江湿原の植生調査を行っています。*一般の方は許可無く湿原に入



入ることはできません。ニッコウキスゲの調査では、各株に番号をつけ、10年以上かけてニッコウキスゲの株の茎や葉の長さ、実の数、二ホンシカの被害被害状況などの調査・記録をしています。近年、二ホンシカによる被害が深刻化している大江湿原ですが、シカの侵入防止柵や調査など様々な形で多くの人の力で守られています。皆様もぜひ、尾瀬の自然を大切にしてください。

入ることはできません。

ニッコウキスゲの調査では、各株に番号をつけ、10年以上かけてニッコウキスゲの株の茎や葉の長さ、実の数、二ホンシカの被害被害状況などの調査・記録をしています。近年、二ホンシカによる被害が深刻化している大江湿原ですが、シカの侵入防止柵や調査など様々な形で多くの人の力で守られています。皆様もぜひ、尾瀬の自然を大切にしてください。

8月29日(尾瀬沼周辺の生き物)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

尾瀬沼周辺で目撃される哺乳類としては二ホンシカの外に、ヒメネズミ、オコジョなどの比較的小型の動物から、イタチ、テン、アナグマ、タヌキなど中型の動物、そして注意が必要なクマなどがあげられます。希にコウモリにも出会うこともあり



今朝の公衆トイレ点検時に入口付近にうすくまっていたとつても小さなコウモリさん。人に踏まれそうな場所だったので、トイレ奥の木枠に飛び立っていきなくなっていました。約15分後には飛び立っていきなくなっていました。

8月30日(今日は尾瀬の日)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

今日で尾瀬国立公園が誕生して、13年目を迎えました!

元々「日光国立公園」の「尾瀬地域」だった尾瀬は日本で初めて分離独立し、新たに会津駒ヶ岳や田代山・帝釈山が編入され「尾瀬国立公園」となりました。

尾瀬国立公園を訪れたみなさんが「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」の基



本理念を実践し、自然を考える機会を持っていただけだろう、私たちも努力してまいります。

9月12日(十二山神様)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

今日ここ山ノ鼻地区に祀られている「十二山神様」のお祭りの日です。「十二山神様」は山で働く人たちの守護神であり、安産の神様としても祀られています。女神様であり、醜女であるという伝説もあって、自分より醜いものがあれば喜ぶとされ、顔が醜いオコジョを供える習慣もあるようです。山ノ鼻でもお供えをして、山小屋関係者やビジターセンター職員でお参りをしました。一般登山者の方も、手を合わせてお参りをされました。



研究見本園の入口の右側に「十二山神様」が祀られています。みなさんも「十二山神様」に安全祈願をしてから出発してはいかがでしょうか。



9月18日(研究見本園防鹿柵の設置)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

近年、食べ物を求めて春から秋の間尾瀬にも顔を見せるようになった二ホンシカ。尾瀬の自然を守るために研究見本園の一部に設置されていた防鹿柵の規模を広げることになりました。シカは飛び跳ねる能力が高く、低い柵では飛び越えられてしまつたため、2mほどの高さが必要



です。防鹿柵の切れる木道上に扉を設置することにより、シカが木道を歩いて侵入することもできなくなりました。まだ始めたばかりの計画ですが、期待どおりの効果があつてくれればいいなあと 생각합니다。湿原の風景を守りつつ、二ホンシカとも共生できる日がいつか来るといいですね。

9月20日（4連休2日目の尾瀬沼の様子）
〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

今日は4連休の2日目です。昨日は泊まりのお客様が多かったようで、朝から賑やかな声が聞こえてきます。8時頃、見晴方面へ歩いている人が大勢いました。今日は尾瀬ヶ原を楽しめるのでしようが。

尾瀬全体（尾瀬沼・尾瀬ヶ原）を楽しみたいと思うと最低一泊は必要となるので、尾瀬に来る際は無理のない計画を立ててからお越し下さい。



9月26日（ありがとう尾瀬清掃活動）
〜山の鼻ビジターセンターより〜

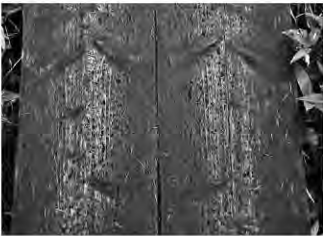
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様による、ありがとう尾瀬清掃活動が行われました。あいにくのお天気でしたが、参加された方がゴミを見つけたと我先に！と拾っていたのが印象的でした。

この素晴らしい尾瀬が美しく保たれているのも、こうして活動してくださる方がいるおかげです。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました！



10月5日（木道に浮かぶ顔）
〜山の鼻ビジターセンターより〜

尾瀬内に敷かれた全長約65kmの木道は様々な工法で作られています。以前採用されていた工法で、一本の力ラマツを真ん中で割って並べたものがあります。このタイプの木道は木道の真ん中で線対称になっているので、節



が顔に見ることがあります。その表情は、ニコニコ笑っている顔もあれば、怒っている顔、困っている顔など様々です。探してみると色々な顔があつて面白くなります。

10月13日（シカ柵撤去作業）
〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

今日は、環境省の保護官と尾瀬保護財団の職員合わせて8名で春に設置したシカ柵撤去作業を行いました。みなさんテキパキと作業をされ、アツという間に作業が終了しました。また来春にシカ柵を設置します。

毎年この設置作業と撤去作業の繰り返しで大変ではありますが、湿原の植物を守るために大切です。シカ柵撤去作業に参加された皆様、お疲れ様でした。



10月22日（尾瀬の荷物輸送）
〜山の鼻ビジターセンターより〜

本日の尾瀬ヶ原はどんより曇り空。雨が時々ばらばらと降り、寒さの厳しい一日となりました。尾瀬では木々の葉が落ちて、まるで春先の景色のようです。

尾瀬の荷物は、ヘリ輸送が歩荷さんが人力で運んでいます。昨日は山ノ鼻地区の今年最後のヘリ輸送でした。ゴミを鳩待峠まで運んで、ゴミ収集業者に回収していただきました。

尾瀬は年間約25万人が訪れる国立公園ですが、同時に快適に尾瀬を楽しめるようにたくさんの方が支えてくれている国立公園とも言えます。

尾瀬を訪れ木道を歩くとき、山小屋でおいしいご飯を食べるとき、尾瀬に関わる様々な人々を思い出していただけたらと思います。



10月25日（積雪しました！）
〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

朝起きると外はまだ真っ暗で気づかなかつたのですが、明るくなってふと外を見ると少し雪が積もっていました。尾瀬沼、今シーズン初の積雪です。（初雪は10月17日でした。）昨日は晴れ間が出て天気が良かったこともあり、今日雪が積もっていたことにびっくりしました。

最近、朝でも昼でも夜でもシカの「ピューーイー」という鳴き声が聞こえてきます。秋はシカの発情の季節なので9月頃から鳴き始めていますが、10月も終わりにになると「売れ残りの雄なのか？」と鳴き声が物悲しく聞こえてきます。

昨日24日(出)の宿泊もつて、尾瀬沼地区の山小屋さんはすべて営業を終了しました。それに伴ってキャンプ場も閉鎖しています。現在、尾瀬沼地区で宿泊できる場所はありませのでご注意ください。

ブログを見ていただいた皆様、ビジターセンターに立ち寄っていただいた皆様、ありがとうございました。また来シーズンも尾瀬でお会いしましょう！
山の鼻ビジターセンター・尾瀬沼ビジターセンター



職員一同

第1回冬期調査

令和2年度の第一回冬期調査として、11月19日から20日にかけて1泊で尾瀬に入り、群馬県の施設である山の鼻ビジターセンター（以下「山V.C.」）とその付随する施設の調査を行いました。安全のため2名で行きました。

11月5日にビジターセンター閉設作業を行った時は、大雪に見舞われ作業が大変でしたので、今回の冬期調査は雪中行軍を覚悟して行ったのですが、期待外れ(?)で、ほとんど積雪はありませんでした。



▲11/19鳩待峠はカラカラ



▲11/4に降り続いた雪で看板も見えなくなりました



▲11/19鳩待～山ノ鼻間に若干の積雪があり、凍っている箇所はかなり滑りました



▲11/5の積雪の中、閉所作業の様子

初日の鳩待～山ノ鼻間には積雪が残っており、凍っていたため転倒に気を付けて進みます。

山ノ鼻に到着すると日陰以外に積雪はなく、天気にも恵まれ穏やかな初日となりました。



▲11/19の公衆トイレ



▲11/5閉設時の公衆トイレ

まず、建物のチェックから仕事が始まります。山V.C.の外観、公衆トイレの外観は問題ありませんでした。屋内も雪の吹込みや、獣が入られ荒らされた形跡もなく問題なしでした。そして、台所に行ってみると「冬水が出ていない!!!」

山V.C.の生活水は山の水源から引いており、大きな水槽に貯めてから山ノ鼻地区の各施設に配水されるのですが、冬は小屋を閉めて留守になるため建物に回っている水は全て抜いて空にします。配管が凍結して破裂するのを防ぐため、冬の時期に山V.C.に行っても通常のように水は使用できません。そこで必要最低限の水を使用できるように、水源からの配管に直接接続されている冬水水道というものが設備されています。この冬水水道の蛇口は凍結しないよう出っっぱなしにしておきます。この配管を上山時と下山時に切り替えて使用するのですが、今回この蛇口から出ているはずの水が出ていなかったのです。



▲貯水槽



▲貯水槽は満水

凍っている可能性もあるので台所にストーブを設置し、とあえす1名を留守番に置いて天気の良いうちに竜宮地区まで巡回行ってきました。

尾瀬が閉まってからも木道工事は継続しており、各所で新しい木道・橋・ベンチができていました。



▲竜宮の沼尻川橋ではまだ工事が進められていました



▲鳩待～山ノ鼻間ベンチ



▲逆さ燧のビュースポット

夕方、山V.C.に戻ってみるとやはり水は出ていません。11月5日の閉所作業時に残っていた（捨て忘れた）水がポットの中とやかんの中に残っていたのがすごくありがたく感じ、初日はその残り水で過ごすことができました。

翌日になっても水は出ていなかったため、原因は凍結ではありません。朝から原因調査で右往左往していると、隣の至仏山荘の職員が同じように右往左往していました。状況を聞くと山V.C.と同じ症状だったので、原因は水源地から建物の間にあると推測し、ゴミが詰まることがある中間バックと呼ばれる装置を確認してみました。



取外し作業



ゴミが詰まっていました

すっかり何か詰まっていたようです。これで解決です。このまま気づかずに冬を越した場合、水源地からの配管がすべて凍り、来春の山V.C.や山小屋のオープンに多大な支障をきたしたことと思います。問題も解決し、無事山V.C.から帰ってきました。次の調査は3月の予定です。

令和3年シーズンの尾瀬についてのお知らせ

■ 道路開通・交通規制

- ① 群馬県側の道路開通予定が以下のとおり公表されています。

【大清水】 4月16日（金）午前10時 【鳩待峠】 4月23日（金）午前10時

- ② 鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。

鳩待峠では116日間マイカー及び二輪車（オートバイ及び自転車など）の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両（ただし、許可車及びシャトルバス等を除く）が規制されます（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。

■ 尾瀬山開き

福島県檜枝岐村で5月29日（土）に沼山峠にて開催される予定ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等の観点から、地元関係者で執り行われる予定です。

※春先は残雪がありますので、十分な装備を整えて入山してください。

■ 至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとおりです。

【登山道閉鎖期間】 5月6日（木）～6月30日（水）

※雪の状況等に応じて、期間が変更になる場合があります。

その他にも、様々なルールがありますので、注意して利用してください（詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください）。



■ ビジターセンター開所

【尾瀬山の鼻ビジターセンター】……5月中旬【予定】

【尾瀬沼ビジターセンター】……5月15日（土）【予定】

■ 尾瀬の情報収集

- ① 尾瀬ビジターセンターブログ

尾瀬山の鼻ビジターセンターと尾瀬沼ビジターセンターの職員が、尾瀬の様子を尾瀬保護財団ホームページで毎日お届けしておりますので、尾瀬に行く際にぜひご活用ください。

- ② ライブカメラ

尾瀬の今の様子をライブカメラで見ることができます。尾瀬保護財団ホームページの下部にリンクがありますので、ぜひご覧ください。

- ③ 尾瀬ハイキングガイド

登山道の難易度分けを行っておりますので、ご自身のレベルに合った登山道選びにご活用ください。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。

■ 尾瀬認定ガイド

- ★ ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドをご活用ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動の状況等を伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアアのガイドに是非ご活用ください。

【問い合わせ先】 尾瀬ガイド協会事務局 TEL：027-220-4431（尾瀬保護財団内）



尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

尾瀬ボランティア総会は中止しました

第24回ボランティア総会は、2月13日（土）に群馬県庁での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症に伴う群馬県の要請内容を考慮して中止しました。昨年度も、国内での感染確認が目立ち始めたこともあって中止しており、2年続けての開催中止となってしまいました。

今回の紙面では、総会に向けてボランティアの皆様にご用意いただいたご意見の一部をご紹介します。

【ご意見】 Withコロナでのボランティア活動について

- マスク着用、三密に気を付けたいと思います。
- 不要不急の外出自粛の要請が出た場合は、ボランティア活動は中止とした方が良いでしょう。
- 尾瀬は不要不急になるのでしょうか。
- 昨年は1度も入山しませんでした。50年通い続けた群馬側から1回福島側から1回の活動をノルマとして来て初めてです。
- 集団で行う活動の仕方の見直しが必要になってくるのかなと思います。

【ご意見】 今後行いたいボランティア活動とその理由

多くのご意見をいただいたものや代表的な活動について、ご紹介します。

《入山口啓発活動》

- 活動の原点だと思っている。●（頻繁には行けないため現状が分からず）情報が無い状態で案内は出来ません。

《ごみ持ち帰り運動》

- 基本中の基本と思います。

《ありがとう尾瀬清掃活動》

- 美しい自然のままに保たれる事を望んでいます。

《お話ボランティア》

- 各テラスにて気軽なミニ解説は良いと思う。初めての来訪者が見逃してしまってもは大変もつたない。訪れた日は「only one」であり、歴史を含め自然を感じてもらいたい。

《自然環境保全活動（外来種除去作業、シカ柵）》

- 保護に関する活動にも参加したい。●シカ柵はニッコウキスゲ復活の重要な役割です。

《その他》

活動設定日以外にもごみ拾いや啓発活動などの自主ボランティアを行ったり、体力や交通手段などに応じて可能な範囲で活動していきたいという意気込みも数多くいただきました。

- 多くの入山者に「尾瀬」の素晴らしさ・大切さを説明、理解を得られる様な活動を行いたい。
- ボランティアの皆様と交流し、知識を深めたい。
- ゴミ拾い一つでもいいので今年はやりたいと思ってます。

その他にも、新たな活動メニューの追加についてのご提案やご要望など様々なご意見をいただきました。



▲ありがとう尾瀬清掃活動の集合写真

尾瀬ボランティアを募集しています

財団では、尾瀬の貴重な自然を国民の宝として大切に保護し、将来へと引き継いでいくために、尾瀬地区の利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動、施設の管理運営の支援等を行う「尾瀬ボランティア」の登録希望者を募集しています。

(1) 受付期間 随時受け付けています。

(2) 応募にあたってのご注意 ～研修・登録が必要です～

活動を始める前に、尾瀬ボランティアへの登録を行います。登録のためには、通常4月から開始する通信研修と6～7月頃に行う現地研修の両方を修了する必要があります。

※詳しくは財団ホームページをご覧ください。(<https://www.oze-fnd.or.jp/ozg/vol/>)

※研修の日程は変更となる場合があります。

【問い合わせ先】 公益財団法人尾瀬保護財団（尾瀬ボランティア担当）

TEL：027-220-4431 / FAX：027-220-4421

令和2年度尾瀬保護財団の主な活動（令和3年2月現在）

- 4月15日 至仏山残雪期調査実施
- 5月14日 尾瀬ガイド協会認定審査委員会に出席（web）
19日 尾瀬ガイド協会理事会（書面）
27日 外来植物（ハルザキヤマガラシ）駆除作業実施
- 6月1日 尾瀬山の鼻ビジターセンター開所
1日 ごみ持ち帰り運動（入山口啓発は中止）
8日 尾瀬ガイド協会理事会（書面）
10日 林野庁による大江湿原シカ柵設置作業に参加
17日 尾瀬保護財団第30回理事会（定時・書面）
17日 尾瀬保護財団第13回評議員会（定時・書面）
19日 至仏山東面登山道整備（柵立て）実施
26日 尾瀬総合学術調査推進協議会総会（書面）
30日 外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施
- 7月1日 尾瀬沼ビジターセンター開所
11日 外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施
- 13・14日 福島県尾瀬地区植生復元調査実施
28日 山ノ鼻地区ツキノワグマ対策連絡会議開催
- 8月19日 外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施
19・20日 福島県尾瀬地区植生復元調査実施
- 9月14日 ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施
17日 尾瀬総合学術調査団拡大部局長会議開催（web）
19～22日 山ノ鼻地区公衆トイレマナーアップキャンペーン実施
30日 第1回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席（web）
- 10月8・9日 福島県尾瀬地区植生復元作業実施
12・13日 ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施
13日 林野庁による大江湿原シカ柵撤去作業に参加
21日 至仏山東面登山道整備（柵倒し）実施
31日 尾瀬山の鼻ビジターセンター閉所
31日 尾瀬沼ビジターセンター閉所
- 11月19・20日 令和2年度第1回冬期調査実施
- 12月13日 尾瀬ガイド協会認定審査委員会に出席（web）
24日 第2回尾瀬賞検討部会開催（web）
- 1月13日 尾瀬国立公園管理運営計画検討小委員会に出席（web）
26日 尾瀬ガイド協会理事会（書面）
29日 尾瀬キャラバン（書面）
- 2月22日 第3回尾瀬賞検討委員会開催（web）
24日 第2回尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会に出席（web）

新型コロナウイルス感染症の影響による主な中止事業

- ◆ 尾瀬ボランティア活動（4月～7月）
- ◆ 尾瀬ボランティア講座
- ◆ 尾瀬自然解説ガイド研修会
- ◆ 尾瀬サミット2020
- ◆ ツーリズムEXPOジャパン2020（東京都）出展
- ◆ NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト及び写真展（高崎展・前橋展）

寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では、
広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。
※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

| | | | | | | | |
|-----|-----------|----|---------|-------------------------------------|--------------|----|---------|
| 福島県 | 東邦銀行県庁支店 | 普通 | 1078095 | 新潟県 | 第四北越銀行県庁支店 | 普通 | 1182791 |
| | 福島銀行本店営業部 | 普通 | 0590088 | | 第四北越銀行新潟県庁支店 | 普通 | 0199366 |
| | 大東銀行福島支店 | 普通 | 1287138 | | 大光銀行新潟支店 | 普通 | 0837334 |
| 群馬県 | 群馬銀行県庁支店 | 普通 | 0515428 | 詳細は財団事務局(☎027-220-4431)にお問い合わせください。 | | | |
| | 東和銀行本店営業部 | 普通 | 0975531 | | | | |

スマーク伊勢崎様からご寄付をいただきました。

昨年度に引き続き、今年度もスマーク伊勢崎様から30万円のご寄付をいただきました。

スマーク伊勢崎（群馬県伊勢崎市）様は、2018年11月に開業10周年を迎えたことを機に、地元群馬の動植物を守る社会貢献活動として、赤城・榛名・妙義の上毛三山をモチーフとしたアート募金箱「coins」を設置し、お客様からの募金を集める取り組みを始められました。その大切な募金を、群馬の自然を代表する尾瀬の保護活動資金として有効に活用してほしいと尾瀬保護財団に寄付いただき、今回で2回目のご寄付となります。

スマーク伊勢崎様では、引き続きアート募金箱「coins」による募金活動を行っておりますので、お立ち寄りの際は是非ご覧になってみてはいかがでしょうか。



特別協賛寄付者のご紹介 ※3月1日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 3,396,790円

顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井商事(株)

糸井商事株式会社
通算寄付額 6,000,000円

環境貢献企業
エコ計画

株式会社エコ計画
通算寄付額 5,000,000円

三条駒草山の会

通算寄付額 1,000,000円

福島銀行

株式会社福島銀行 通算寄付額 61,558,006円

meiji

株式会社明治 通算寄付額 3,100,000円



アセットマネジメントOne 株式会社
通算寄付額 37,971,534円

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が14回目のご寄付となります。

通算寄付額 75,943,067円



株式会社群馬銀行 通算寄付額 35,889,263円



株式会社第四北越銀行 通算寄付額 6,956,427円



Daishi Hokuetsu Securities
第四北越証券株式会社
通算寄付額 1,891,132円



すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 13,449,860円

協賛寄付者のご紹介

※3月1日現在、五十音順、敬称略

「遊ぶ」を支え、環境と未来をひらく



関東いすゞ自動車株式会社
通算寄付額 300,000円



クラブツーリズム株式会社
通算寄付額 1,000,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 1,000,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 2,000,000円



群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社 通算寄付額 1,155,330円

GN 群馬日産自動車株式会社

群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

KDDI株式会社

通算寄付額 336,700円

株式会社ジーシーシー

株式会社ジーシーシー 通算寄付額 300,000円



スマーク伊勢崎
通算寄付額 800,000円

利根郡信用金庫

利根郡信用金庫 通算寄付額 3,745,390円



株式会社とりせん 通算寄付額 2,678,562円



株式会社ニチネン 通算寄付額 1,400,000円



ひかり接骨院

通算寄付額 468,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和2年11月1日～令和3年1月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

大野 賢二、(株)尾瀬岩鞍リゾート、関越交通(株)、公孫会北魚支部、柴田 慶子、関本 昇、(株)ヤマト

表紙の風景

昨年は緊急事態宣言中であったため、多くの人々の目に触れることなく静かに見頃を終えた尾瀬のミズバショウ。もしミズバショウの季節に尾瀬を訪れることができたなら是非見ていただきたいのが山ノ鼻にある研究見本園のミズバショウです。研究見本園と言っても、尾瀬ヶ原の一部であり自然の植生の湿原です。日帰りの場合、多くの人はその先の尾瀬ヶ原に急いでしまうところですが、木道から見える範囲の群落の大きさでは研究見本園が一番ではないかと思えます。これから始まる尾瀬の季節を期待させる一枚です。



表紙写真：研究見本園のミズバショウ 撮影日：令和2年5月24日



尾瀬公式Instagram

本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn

友の会 コーナー

— 「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。 —

※加入・更新時期は、年4回(5月・8月・11月・2月)です

※8月1日からの加入・更新をご希望の方は6月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

| | | |
|----|---------------------------|-------------------------------|
| 個人 | 個人会員 | 1口 2,000円 |
| | 家族会員 (個人会員と同居の家族) | 1口 1,500円 |
| | ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下) | 1口 1,500円 |
| | 賛助会員 (団体・企業等) | 1口 10,000円 |
| | 特別会員 (企業等) | 3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付 |

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌配布：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料割引：入浴料割引

対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
https://www.oze-fnd.or.jp

編集後記

桜はもちろん春の代表ですが、まだ寒さが残る中控えめに咲く梅も私は好きです。私の住む群馬県は和歌山県に次いで梅の生産量全国第二位で、梅林が有名です。先日群馬三大梅林の一つ榛名梅林に行ってきました。満開の梅の下に一輪のたんぽぽ。つつましくも確実な春の訪れを感じながら、『ここに生まれてきてくれてありがとう。尾瀬だと悪者になっちゃうんだよ。』と心の中で呟いていました。特別に春が好きな訳ではないのに、春はやっぱり特別です。(佐々木)



OZE Mobile 緊急情報・お知らせ・ライブ配信 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

@oze_info



本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。